

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）（年間）

	視点	4年間の目標	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月18日実施）	
		(令和6年度策定)		具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月10日実施)	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p><学習支援> ①学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の特性等に応じた教育課程を編成し、適切に実施する。</p> <p><開発・広報> ②社会の変化やニーズに対応し、生き抜くための資質・能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進する。 ③「総合的な探究の時間」における探究活動の充実により、「自ら主体的に学び続ける力」の育成を図る。</p>	<p><学習支援> ①新学習指導要領に基づく教育課程の定着を図る。</p> <p><開発・広報> ②授業力向上研修のテーマに基づき、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを積極的に推進する。 ③1学年の基礎的な探究活動プログラムを改善するとともに、2学年の探究活動のプログラムを確立する。</p>	<p><学習支援> ①生徒が自らの進路実現を見通したよりよい科目選択を行えるようにするため、説明会や資料の充実を図る。</p> <p><開発・広報> ②授業力向上研修会4回、研究授業1回、授業互見週間2回を通して、組織的な授業改善を推進する。 ③1学年においては3分野のミニ探究を実施し、2学年は1年間を通した探究活動を行う。</p>	<p><学習支援> ①職員・生徒双方が教育課程の特長を理解し、適切な科目選択につなげているか。</p> <p><開発・広報> ②各教科の自己評価、生徒による授業評価、取組における教員の意識行動調査に改善が見られたか。 ③生徒が主体的に活動し、成果物を完成させることができたか。</p>	<p><学習支援> ①科目選択の提出をDX化したところ、修正や集約作業が弾力化・合理化された。</p> <p><開発・広報> ②授業力向上研修会を実施、授業互見週間を実施、今後2回の研修会と授業互見週間を1回実施予定。 ③各学年の探究プログラムを実施中。</p>	<p><学習支援> ①提出・集約方法の改善にとどまらず、科目選択のDX化を追究していく。また、選択科目の組み合わせは継続的に検討していく。</p> <p><開発・広報> ②設定したテーマにそくした授業展開がよりスムーズに行える支援を今後研修会を通して行う。 ③生徒の主体的な校外活動についての支援体制が不十分であった。</p>	<p>○全体的によく取り組まれている。この方針のまま続けていってもらいたい。</p> <p>○外部講師による講演については、授業力向上に限らず様々な研修の中で招聘を検討して良いのではないかと。</p> <p>○総合的な探究の時間の発表会については、誰に見せるのかということも意識したかたにしたい。OB・OGや地域の方々への発表の公開も検討していただきたい。</p> <p>○高校と小学校がこれだけ近い距離にあるので、生徒同士の交流や教員間の情報交換、研修の参加等気軽に連携を行なっていたきたい。</p> <p>○ワークライフバランスの両立には、外部機関の効果的な活用が重要になってくる。その中で大学は良いパートナーとなるのではないかと。</p> <p>○今後教育機関が生成AIとどのように関わっていけば良いのかということを考えていく必要があるのではないだろうか。</p> <p>○視聴覚室の机と椅子が非常に使いづらい。クラウドファンディング等の方法も活用して、キャスター付きのものに一新してはどうか。</p>	<p><学習支援> ①科目選択作業のDX化は、円滑に移行することができた。</p> <p><開発・広報> ②研修会を年4回実施し、新たに指導主事を招聘し指導助言をもらうなど「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの推進に取り組んだ。職員間の教科横断の課題の共有、取組の実践理解ができた。教科特性の違いによる共通テーマの設定の難しさが浮き彫りになった。 ③2学年にて個別探究をまとめ上げ、成果発表会を終えることができた。生徒活動に差が生まれている。底上げを行い、一定レベルの成果が出せる支援が必要である。</p>	<p><学習支援> ①今後も生徒にはわかりやすさ、職員には時短と整理のしやすさをもたらすDX化を追究していく。</p> <p><開発・広報> ②教科特性を理解したテーマ設定を定める検討を行っている。また、「総合的な探究の時間」における生徒の問いを深めるための研修計画ができるよう計画をしている。次年度は、指導主事の招聘とともに、他校と同様に全県に対する公開授業を行う。 ③「総合的な探究の時間」の課題設定をより深いものとするために、授業力向上研修会を通して、支援の仕方を職員間で共有を行う。</p>
2	生徒指導 ・支援 (幼児・児童)	<p><生徒支援> ①生徒一人ひとりが安心して学校生活を過ごせるよう、安全な教育環境を確保し、支援体制の充実を図る。</p> <p><活動支援> ②生徒会活動や学校行事を充実させ、生徒が主体的に活動できるように、生徒会本部・各種委員会と連携を密にする。 ③部活動を通して、日頃の学習習慣の確立を合わせたタイムマネジメント能力の育成を図り、自主的な活動ができるよう支援する。</p>	<p><生徒支援> ①生徒に基本的生活習慣を確立させ、自律心や規範意識の向上を促しつつ、生徒の個別の状況に応じて支援する。</p> <p><活動支援> ②生徒が生徒会行事・学校行事を通して自己肯定感を高められるように、生徒会本部・各種委員会と連携を密にする。 ③部活動活性化を図り、生徒が主体的に活動できるよう顧問総会・部長会との連携を密にし、部活動の環境整備を行う。</p>	<p><生徒支援> ①日頃から生徒の生活習慣・行動を観察して課題を把握し、適時に職員間の連携で必要な支援を行う。併せてあらゆる場面で自律心や規範意識の向上を図る。</p> <p><活動支援> ②行事の内容について、これまでのアンケート内容を分析し、精選し質の向上に努める。また、生徒総会や生徒会選挙はオンラインを活用し、より効率よく運営できるようにする。 ③生徒の安全面、健康面、学習面に配慮し、部活動のあり方や休養日の考え方について職員・生徒で共有する。</p>	<p><生徒支援> ①生徒が必要な支援を受けることにより、課題解決に至るケースが前年度に比べて増加したか。また、特別指導や問題行動が減少したか。</p> <p><活動支援> ②学校行事・生徒会行事を通して生徒の自己肯定感は高められたか。 ③部活動を通して生徒が主体的に活動できるように支援できたか。</p>	<p><生徒支援> ①職員間で連携して生徒の生活習慣・行動を観察し、課題のある生徒に必要な支援を行うことができた。自律心や規範意識の向上に努めた。</p> <p><活動支援> ②球技大会、体育祭、文化祭では、実行委員会を中心に積極的に話し合い意見を出し実施ができた ③部活動補助費を拡充し、部活動見学、文化祭での発表において、部活動の発表を支援し主体的活動を支援した。</p>	<p><生徒支援> ①かながわサポートドックの効果は明確ではなく、課題のケースも多様化しているが、職員とSC、SSWが連携して生徒に必要な支援をしている。</p> <p><活動支援> ②引き続き生徒の話し合いを活性化し、三送会、役員選挙、球技大会を生徒主体で実施する。 ③部活動補助費の補正予算を試行し、生徒の活動支援を拡充する。</p>	<p><生徒支援> ①生徒の大多数は基本的生活習慣が確立し、自律心や規範意識を身に付けている。一方で、そうでない生徒も少なくない。また一部の生徒には個別の状況に応じて教育相談等により支援し、成果を上げた例もあれば、解決に至らない例もあった。</p> <p><活動支援> ②学校行事・生徒会行事を通して、生徒の主体性を尊重し、社会性の育成に努めた。 ③部活動の主体的な活動を支援し、環境整備を拡充し、活性化を支援した。</p>	<p><生徒支援> ①学校全体の生徒指導方針を確立し、全職員の共通認識のもと、指導・支援にあたる。生活習慣が崩れかけた生徒に教職員が理由を確認し、教育相談チームとともに対応する。また、日頃の教育活動をととして自律心や規範意識の大切さを自覚させる。個別の配慮を要する生徒には教職員、家庭、SC、SSWの連携で、より効果的な支援を模索する。</p> <p><活動支援> ②行事における指導方針を確立し、職員全体で共通認識を持って臨む。体育館改修工事終了まで、球技大会、文化祭の運営に関して、様々な方面と協力する。 ③自主的な活動のための金銭面的補助だけでなく、他の支援方法を検討する。</p>	
3	進路指導 ・支援	<p><進路支援> ①3年間を見通した体系的なキャリア教育を実践する。希望する進路実現に向けた能力を育成する。</p> <p>②多様な進路希望に対応する進路支援体制を充実させる。</p>	<p><進路支援> ①3年間のキャリア教育を構築し、生徒が主体的段階的にキャリアプランを構想し実現する力を育成する。</p> <p>②多様な進路希望に適した進路支援体制を充実させる。</p>	<p><進路支援> ①3年間の進路説明会や行事の計画の見直しを行う。模試の効果的活用を進める。</p> <p>②進路情報の提供や教員対象の研修会を実施する。</p>	<p><進路支援> ①学年間の共有と連動が取れたか。模試前後の学習が充実したか。</p> <p>②多様な進路相談に対し、適切な指導ができたか。</p>	<p><進路支援> ①1年：基礎テスト振り返り時に主体的に進路について考える活動を取り入れた。2年：上級学校説明会の開催。3年：受験別各種説明会の実施。 ②教員対象の進路関係研修の案内を各学年に提供した。</p>	<p><進路支援> ①3年全員受験の模試3回が終了した。より充実した受験方法を考え、1月の1、2年模試に生かしたい。</p> <p>②1、2年生の進路選択に向けた説明会を充実させる。</p>	<p><進路支援> ①2年生の小論文模模試について、主体的に取り組めるようにテーマ選択を導入した。 ②1・2年で分野別上級学校説明会、2年で上級学校説明会を実施し、多様な進路希望に対応した。新学習指導要領による入試に対応した。</p>	<p><進路支援> ①本校生徒の進路希望を考慮し、キャリア教育の観点から模試の内容の見直しなど、進路指導体制を再構築する。 ②変化する入試に対応できるように、進路情報の提供や教員対象の研修会を実施する。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月18日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	＜開発・広報＞ ①地域との連携・協働を進め、「地域から信頼される学校づくり」を推進する。 ②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を充実させる。教育活動や成果を情報発信し、広報活動を進める。	＜開発・広報＞ ①学校行事や地域行事等において、地域と連携した教育活動を実施する。 ②本校の教育活動について、学校HPや学校説明会等において積極的に情報を発信する。	＜開発・広報＞ ①近隣小中学校や地域との行事等に積極的に参加する。 ②学校HPにおいては、新規情報を、時機を逃さず配信する。学校説明会等においては、本校の特色を積極的に伝える。	＜開発・広報＞ ①地域との連携・協働を推進することができたか。 ②新規情報を、学校HPに時機を逃さず配信することができたか。学校説明会等で、本校の特色を十分に伝えることができたか。	＜開発・広報＞ ①地域イベントのボランティア募集への広報活動を行い参加希望生徒へのサポートを行った。地域貢献デーを利用し、太尾小学校と協働作業を11月下旬に実施予定。 ②学校HPにおいて、新規内容の改定を随時行った。	＜開発・広報＞ ①地域連携に生徒主体の活動について検討する。 ②各部活動のHP更新率が低い。更新方法について簡略化するなど更新を促す活動をおこなう。		＜開発・広報＞ ①地域イベントのボランティア募集への広報活動を行い参加希望生徒へのサポートを行った。太尾小学校との地域連携事業は「交流事業」として実施し、高評価を得て、継続的な交流の基盤を構築することができた。 ②学校説明会等、体育館の改修で例年の対応とは異なる形態ではあったが無事に終えることができた。 ネット環境が整備されることもあり、その利用をより高めた広報活動が必要だと考えている。	＜開発・広報＞ ①太尾小学校との交流事業内容について、2年間の実施内容の評価をもとに、来年度の実施内容を再確認し、さらなる「地域から信頼される学校づくり」を推進する。 ②学校HPの部活動の更新方法の変更を検討している。 新しく電子図書館を開設し、校内活用や外部への発信媒体としての活用を行う。
5	学校管理 学校運営	＜管理・運営＞ ①生徒たちが過ごす教室環境の整備に努め、安心・安全な学校生活を推進する。 ②ICT環境の点検整備を推進し、授業等に支障のないよう努める。 ＜開発・広報＞ ③学校運営協議会により課題を明らかにし、地域や外部機関等との協働などにより、課題解決を進める。 ＜管理職他＞ ④職員のワークライフバランスを充実させるため、働き方改革を推進する。 ⑤生徒が安心して通い学ぶことができるように、コンプライアンスの徹底と不祥事防止に取り組む。	＜管理・運営＞ ①毎日実施する清掃活動の用具を点検整備し、効率的な清掃活動が実施できるよう支援する。 ②ICT環境の問題点を洗い出し、整備できるように計画を立てる。 ＜開発・広報＞ ③学校運営協議会により、課題を明らかにし、課題解決に努める。 ＜管理職他＞ ④ワークライフバランスの実現を通じて、職員自らの人間性や創造性を高めるとともに、生徒と向き合う時間を確保し、効果的な教育活動を行う。 ⑤-1 不祥事防止会議が中心となり、不祥事防止研修会の充実を図る。 ⑤-2 同僚性を醸成し、初任者等が課題やストレスを抱え込まないようにする。	＜管理・運営＞ ①汚損した机椅子や清掃用具を速やかに交換していく。 ②機器の故障時の連絡体制を構築する。 ＜開発・広報＞ ③学校運営協議会を年3回開催し、本校の教育活動等について委員から評価をいただくとともに、課題の解決策を講じる。 ＜管理職他＞ ④-1 グループ業務の見直しと業務分担の適正化を図る。 ④-2 時間外在校時間の縮減を図る。 ④-3 年次休暇の取得を促進する。 ⑤-1 啓発・点検資料を基にした研修の実施に加え、グループ毎にアクションプランを策定し、全体で情報共有する。 ⑤-2 初任者等の相談者を指定するとともに、必要に応じて産業医等との面談を行う。	＜管理・運営＞ ①危険な状態で使用している机等がないか。清掃用具は十分に揃っているか。 ②ICT機器の状態を把握できているか。 ＜開発広報G＞ ③課題を明らかにすることができたか。また、解決策を策定し、解決することができたか。 ＜管理職他＞ ④-1 業務の見直しと、業務分担の適正化を図ったか。 ④-2 前年度比で時間外在校時間が縮減できたか。 ④-3 年次休暇一人あたり平均取得日数が15日以上になったか。 ⑤-1 各グループのアクションプランにより、職員の不祥事防止の意識啓発につながったか。 ⑤-2 職員を組織的にサポートすることができたか。	＜管理・運営＞ ①文化祭を機に各クラス担任で点検を実施してもらい、不備があるものについては整備した。 ②新たに電子黒板が導入されたことに伴い、異常時の連絡体制を整備する必要がある。 ＜開発広報G＞ ③第1回学校運営協議会を開催し、協議会で共有した課題を報告書にて周知を行った。 ＜管理職他＞ ④-1 前期の振返りを実施するとともに、業務の見直し及び業務移管の検討を実施中。 ④-2 全ての月で前年度人数より下回った。 ④-3 年休取得が5日に満たない職員が5名、夏休を5日取得していない職員が4名いた。 ⑤-1 不祥事防止研修会及び外部講師を招聘した研修会を実施した。風通しの良い職場づくりを目指して、グループ、学年でアクションプランを設定して取り組んだ。 ⑤-2 指導担当教員が相談者としての役割も担ってもらった。初任者全員が産業医との面談を実施した。	＜管理・運営＞ ①引き続き点検整備を実施し、入選の時期を機に改めて大々的に整備する。 ②電子黒板の異常時連絡体制について検討し、既存のプロジェクトの扱いについても検討する。 ＜開発広報G＞ ③新たな中期目標を見据えた連携を考える必要がある。 ＜管理職他＞ ④-1 12月までに見直しを終える。 ④-2 引き続き時間外在校時間の縮減を呼び掛けていく。 ④-3 当該職員の年休の計画的な取得を促していく。 ⑤-1 引き続き、風通しの良い職場づくりを目指して、研修会や朝の打合せ等得不祥事防止の意識啓発をするとともに、前期のアクションプランの振返りを活かし、後期も取り組んでいく。 ⑤-2 必要に応じて産業医との面談を実施する。		＜管理運営＞ ①②各教室で点検を実施し、これまでの机や椅子に加え、カーテンやカーテンレール、扉の修繕を行いより良い環境づくりに努めた。 ＜開発広報G＞ ③学校運営協議会を開催し、協議会で共有した課題を報告書にて周知を行った。 「総合的な探究の時間」に関わる外部機関との連携は今後検討を深める必要がある。 ＜管理職他＞ ④-1 グループ業務の見直しを行い、コロナ過で実施されていなかった行事等の今後の扱いについて整理した。 ④-2 年間トータルで、時間外在校時間を前年度より下回ることができた。 ④-3 年間を通じて、ノー残業デーをアナウンスした。年休の取得日数は、目標の15日以上を取得者は、52.6%だった。 ⑤-1 昨年に引き続き外部講師を招聘し、風通しの良い職場環境づくりをテーマに講習会を実施し「心理的安全性が高い職場」について考えることができた。また、学年・グループで風通しの良い職場環境づくりアクションプランを策定・実行し、意義・取組・効果について、59%～80%がプラスの評価だった。次年度の必要性については、42%～49%がプラス評価であった。不祥事ゼロプラムの個人評価結果は、80%以上達成（A評価）が、90%であったが、定期テスト及び進学指導の際にヒヤリハット事例が発生した。 不祥事防止会議において、各グループからの不祥事防止に関する提案がなかった。 ⑤-2 初任者や希望者対象に産業医による面談を適宜実施した。	＜管理運営＞ ①②各教室に物品が増えてきているので、定常的に破損箇所等を報告できるシステムを考える。 ＜開発広報G＞ ③「総合的な探究の時間」に関わる外部機関との連携を生徒のニーズに合わせて検討する。 ＜管理職他＞ ④-1 働き方改革の視点に立った業務改善を行うとともに、併せてグループの適正人数等の検討を行う。 ④-2 特定の職員、また、秋の学校行事の時期に時間外労働が増える傾向があったため、計画的な業務の遂行及び業務の均等化を進めるとともに、働き方の見直しが必要である。 ④-3 引き続き、職員全体で年休の計画的な取得を促していく。 ⑤-1 引き続き風通しの良い職場環境づくりに取り組む。 取組内容については、県教委からの点検資料の他に、各グループ・学年・委員会から業務等に関連するヒヤリハット事例や不祥事防止に関する提案を不祥事防止会議に積極的に提案し、不祥事防止会議メンバー（各リーダー）が中心となり、実施する。 特に、定期テスト、進学指導は、ヒヤリハット事例が発生したので、対応について再構築する。 ⑤-2 引き続き、産業医に協力を得ながら、職員のメンタルヘルス対策に職員全体で取り組む。